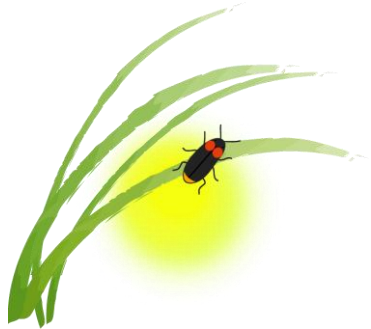


あしやがわ かんさつかい  
第28回 芦屋川のゲンジボタル観察会

平成26年6月7日(土) 午後7:30～ ※小雨決行

—午後7時30分「開森橋」集合・7時45分からゲンジボタルのお話をします—



主催 芦屋川に魚を増やそう会

共催 芦屋市

連絡先 山田 0797-23-2066

当日 090-6826-9986

蛍は、世界で2000種、日本では、4亜科9属の42種。  
その中で、最も強く光るのが、ゲンジボタル(源氏蛍)です。

★ ゲンジボタル(甲虫目(鞘翅目)ホタル科)

きれいな川の指標生物で環境のバロメーターとか環境の結晶と呼ばれています。  
農薬、合成洗剤、工場排水の汚染がなく、流速10~30cm/secの緩急ある流れで溶存酸素が飽和状態であることと、カワニナが生息していることが、ゲンジボタルの生存条件です。

1. 大きさは、体長15ミリから18ミリくらい
2. 体の色は、黒色。 胸の色は赤色。 胸にある十字のマークは黒色
3. どんな一生かな? 1年の命 卵⇒幼虫⇒蛹(サナギ)⇒成虫(今日見る蛍)

○ 卵(コケの上で、いつも光っている)

卵の大きさは0.5mm。直射日光が当たらず、風通しがよく、湿っているところ。  
草が水面にかぶさっているような所が最高。川岸の草は、大切にしましょう。

○ 幼虫(水の中で、いつも光っている) カワニナを食べて、5~6回脱皮する。

○ サナギ(土の中で、いつも光っている) 40~50日砂混じりの土の中で過ごす。

○ 成虫(空中・草の中で、日没後に求愛行動として明滅する)

成虫の雄の発光器は、第6,7節。雌は、第6節だけで、7節は産卵器にある。

関西のゲンジボタルは、2秒明滅。東日本の源氏ボタルは4秒間。中部地方は3秒間。

発光細胞内にあるルシフェリンと酵素ルシフェラーゼが酸素と作用して発光する。

★ ゲンジボタルの光りかた、飛び方を観察しましょう。

～ホタル観察の際の注意点～

○川に懐中電灯の光を向けないで下さい。ホタルが光らなくなります。

○足元は暗くなっておりますので、転倒等や自動車に十分お気を付け下さい。